

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

渋谷保育園

大和市福田 6002

運営主体：社会福祉法人 寿会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5～6 ページ
分類別評価結果	7～19 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	20～26 ページ
利用者本人調査分析	27～28 ページ
事業者コメント	29 ページ

作成：2012 年 11 月 15 日

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	渋谷保育園（保育所）		
報告書提出日	2012年11月6日	評価に要した期間	6ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2012年6月～2012年8月</p>	<p>職員会議で第三者評価の主旨を説明した後、職員各自が休み時間を利用して個人の自己評価を行った。</p> <p>0、1歳児クラス・2、3歳児クラス、4、5歳児クラス、調理担当の4ブロックに分かれて5回の会議を行った。そのほか、全職員で昼休みに5回、夜の職員会議で1回話し合いを行った。</p> <p>その後まとめの作業を園長・主任を中心に行った。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2012年7月17日～2012年7月31日</p>	<p>全園児の保護者（82世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日：第1日 2012年9月10日 第2日 2012年9月14日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：書類調査。園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：各クラス担任保育士6名、フリー保育士2名、栄養士1名に個別に面接調査。その後、園長・主任に面接調査。最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日：第1日 2012年9月10日 第2日 2012年9月14日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

渋谷保育園は、小田急江ノ島線 高座渋谷駅西口から平坦な道を徒歩 12 分ほどのところにあります。駅から商業地域を抜け広い道路を横切って行くと、園の周囲は住宅地ですが、川や畑、樹木のある公園など自然とのふれあいに恵まれた地域です。

園舎は鉄筋造平屋建てで築 30 年以上の建物ですが、保育室は広くゆとりがあります。

渋谷保育園は昭和 43 年、大和市立保育園として開園し、昭和 56 年、現在の建物に移りました。平成 21 年、市の公立保育園民営化第一号として、検討の末、社会福祉法人寿会に運営が委ねられました。

運営法人は、すでに、座間市の座間子どもの家保育園と、海老名市のつちのこ保育園の運営について 30 年以上の実績があり、3 番目の園となった渋谷保育園について、公立保育園時代の保育のよさを引き継ぎながら、独自のカラーも出すように努めています。

定員は 0 歳から 5 歳まで 90 名で、開園時間は平日午前 7 時～午後 8 時、土曜日は午前 7 時～午後 5 時 30 分です。（延長保育時間を含みます）

保育の理念は、

- ・夢や遊び心をもってのびのび生活するように
- ・いろいろな仲間とくらす中で、仲間を理解し自分も理解するように
- ・小さいクラスから大きいクラスまで一緒にくらす中で、小さい子は大きい子を見て育ち、大きい子は小さい子をかわいがる関係を大切に
- ・子どもをまん中にして、保護者も保育者も保育園の生活をともに楽しんでいけるように
- ・地域の子もお年寄りなど、いろいろな人が気軽に集まれる保育園に
- ・子どもの笑顔が素敵な保育園に

となっていて、理念に基づき保育目標は、

1. 保護者と保育園がともに子どもを見守り育てる
2. たくさんの体験をとおして豊かな心を育てる
3. いろいろな子ども、異年齢の子どもとの関わりの中で他者を思いやる心を育てる
4. 外遊びを中心にして、たくましい身体を育てる

の 4 項目を掲げています。

高く評価できる点

1. 子どもたちは恵まれた環境の中で、仲よく元気に育っています

子どもたちは自由遊びの時間が多くあり、好きな遊びを異年齢でしています。中でも園庭のシンボルのような大きな楠の樹下、大勢で遊んでいる姿は絵になる光景です。広い園庭をプラスチックで走り回ったり、かけっこをしたり、砂場で友達と山を作ったり思い思いの遊びをしています。

園からの徒歩圏に十指に余る公園もあり、散歩や遊びによく出かけます。川辺で、カメやコイ、カモを見たり、会う人と挨拶をしてハイタッチを交わしたりします。公園では、暑い日でもほとんどの子が鬼ごっこや遊具で走り回って遊び、保育士が用意した麦茶を飲むとまたかけ出して行きます。散歩の往復は男の子も女の子も入り混じって自然に手をつなぎ、異年齢で来たときは、年上の子が年下の子を道路の内側にしして手をつないで歩き、横断歩道はルールを守って渡ります。

朝の会は、園児全員がホールに集まってしています。園舎は平屋なので、中庭伝いに来るクラス

もあり、100名近い子どもが集まっても入口もあまり混雑しません。保育士に抱かれた0歳児が紹介されたり、歌を上手に歌う幼児を乳児がそばで見えたり、座るときには、指示されなくても年上の子どもが年下の子どもに席を譲ったり、終わると5歳児は乳児を保育室に送って行ったり、本当に仲のよい兄弟姉妹のようです。5歳児の中には「今日はトントン当番だ」と午睡時に乳児を寝かしつける「チビッコ当番」を嬉しそうに話す子もいます。

給食も減らしたり残したりする子どもはほとんどなく、おかわりが足りないほどです。食べた後、午睡のときはぐずる子どもも見当たらずぐっすり寝ています。

よく遊びよく食べよく眠る、身も心も健やかな子どもたちが育っています。

2、職員は連携し合っていて、子どもたちや保護者とよい関係性を持っています

職員はそれぞれ役割を持って責任を果たすと同時に、互いに連携を密にして補い合っています。職員会議、ブロック会議、朝のミーティング等で話し合い、実際の保育の場でも保育士は自然に分担して仕事をしています。給食担当者は子どもたちの給食時、保育室を回って子どもの声を聞いたり、保育士と食育を進め、保護者に子どもの好きなメニューのレシピを知らせたりしています。地域育児支援担当保育士もフリーとして、子どもたちに関わり保護者にもよく声かけをしています。園長・主任も実際に保育室に入って手伝ったり見守ったり、登園降園の際は保護者に気さくに声をかけています。また、連絡帳などで保護者からの相談があると、進んで対応したりアドバイスしたりしています。職員ヒアリングでも、口を揃えて園長も主任も相談しやすいとのことでした。

子どもたちは職員と友達のように会話をしていることもありますが、話はよく聞き、指示にも従っています。また、朝登園した乳児を抱き取り、保育士が保護者と交わす短い会話等にもお互いに笑顔で信頼し合っている様子がうかがえました。降園時には、玄関前の掲示板の写真新聞を、子どもと話しながら見ている保護者もいます。アンケートでも「子どもが大切にされ、保育園生活を楽しんでいる」ことに、ほとんどの保護者が満足しています。

このように、園の理念・目標に沿った「子どもをまん中にして保護者と保育園が見守る保育」が実現しています。

3、地域育児支援に努めています

園は公立保育園当時から地域支援に力を入れていますが、それを引き継ぎさらに内容を充実させています。園内では平日の午前中の園庭解放や絵本の貸し出しのほかに、毎月最終火曜日の「あそぼう会」では、季節感のある遊びや製作、体操、パネルシアターなどをしていて、訪れる親子に喜ばれています。園外では、月1回第1火曜日に、近所のひだまり公園に保育士が出向いて地域の子どもに遊びを提供する「おひさまサロン」のほか、大和市民生委員児童委員協議会などと連携して、「育児講座アイアイ」や「子育てサロン」などに多くのメニューを用意しています。これらの催しの中にミュージカルなど新しい試みを取り入れたり、気軽に相談をしてもらえる工夫をしたりして、リピーターの参加者も増えています。

園の地域育児支援担当保育士が広報活動も含め熱心に取り組んでいますが、他の職員も行事の準備など協力して、園全体で地域育児支援に努めています。

改善や工夫が望まれる点

1、記録の保存・共有化

園は、職員が協力して子どもたちの安心安全のために日々保育に取り組んでいますが、取り組みに対しての記録は万全ではありません。例えば安全点検実施後の記録や、毎日の清掃点検等確認のため記録しておくことが望まれます。

また、園長を始め職員は気軽に保護者の相談を受けて、対面での話し合いを重視していますが、個人情報に配慮しつつ相談の記録を継続的に残し、職員全体が共有することが望まれます。

最近記録の形式を整えているものもありますので、さらに工夫して今後職員の交替や役割が変わったときにも、保育の質が保持・向上されるような取り組みを期待します。

2、職員集団内のボトムアップの仕組み

園は園長・主任の人柄もあり民主的に運営されていて、意見を言いやすいようです。

けれども、重要な事柄については、個人意見を職員会議等で取り上げるばかりでなく、組織的にボトムアップの仕組みを作ることが望まれます。例えば、保育課程の作成等についても、部門別の検討委員会を持って、下から上げて行き、そこに園長・主任がスーパーバイザーとして参加すると、職員に自分たちで作り上げたという達成感が生まれると思われれます。また、そうした過程で、クラスリーダーから保育園全体の視野を持つ幹部職員の養成につながることを期待されます。

評価領域ごとの特記事項

このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

1、人権の尊重

- ・ 保育の理念は、・ 夢や遊び心をもってのびのび生活するように ・ いろいろな仲間とくらす中で、仲間を理解し自分も理解するように ・ 小さいクラスから大きいクラスまで一緒にくらす中で、小さい子は大きい子を見て育ち、大きい子は小さい子をかわいがり関係を大切に ・ 子どもをまん中にして、保護者も保育者も保育園の生活をともに楽しんでいけるように ・ 地域の子もお年寄りなど、いろいろな人が気軽に集まれる保育園に ・ 子どもの笑顔が素敵な保育園に となっていて、理念に基づき保育目標を4項目掲げ利用者本人を尊重したものとなっています。
- ・ 職員は、園の生活や遊びの中で、強制したりせかしたりすることなく、子どもの個々のペースに合わせ、分かりやすい言葉で話しています。
- ・ 子ども同士のケンカやトラブルなどについては、子ども同士で解決できるよう基本的に見守っています。ヒートアップしてしまう子どもがいたときは、場所を変えクールダウンするよう配慮し、子どもの気持ちや発言を受け止め、落ち着いた頃に言葉で伝えるように促しています。
- ・ 守秘義務については、入職時に研修を行ない、誓約書を提出しています。また、ボランティア等には、オリエンテーションのときに、個人情報について説明しています。
- ・ 行事や持ち物、服装などで性差による区別はせず、出席簿も性別で分けていません。また、グループ分けは、子どもの主体性や個性を尊重していて、性差による区別は行なっていません。
- ・ 虐待の定義は職員に周知されていて、日頃から衣服の着脱時の観察、子どもの表情、摂食状況等に心を配っています。家庭支援の必要な保護者には、声かけをするなど保護者に寄り添うようにして、信頼関係を築くようにしています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・ おもちゃは保育室の押し入れの下半分に子どもが自由に取り出せるように入れています。保育室はスペースに余裕があるので食事の場と午睡の場を分けることができ、ゆっくり食べる子がいても見守っています。
- ・ 異年齢児の交流は日常自然にできています。朝夕の合同保育、全クラス参加の朝の会、行事、散歩など、その機会は多いです。朝の会が終わると幼児が乳児を部屋まで送ったり、乳児の午睡のとき、5歳児が背中をトントンする「チビッコ当番」をしたりしています。
- ・ 「ぎょうざパーティー」や「流しそうめん」など行事食のときは、ホールや中庭で全員一緒に食事をしています。園では、食事が楽しいと感じるためには、「たくさん身体を動かし、おなかを空かせて、みんなで食べる」ことが基本であると考えています。
- ・ 眠れない子どもには、午睡を強要せず絵本を読んで静かに過ごすよう対応しています。午睡中は、室温や明るさに配慮しています。ときには、子守唄を歌い、BGMを流しています。
- ・ トイレトレーニングは、子どもの発達に合わせ、保護者と相談しながら進めています。
- ・ 散歩に行くことが多く、日常的に地域の人と挨拶を交わしています。ときには、地域の人とハイタッチをして交流を図ることもあります。自治会で行なうお祭りは、自主参加としていますが、4、5歳児が踊りを披露したり保育士がマジックショーの協力をしたりしています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・ 保育課程は家庭の状況を汲み取り保育時間を考慮したり、豊かな自然環境や近隣との関係を大切にしたりして作成されています。保育課程を基に年間指導計画・月間指導計画・週案を作成し、子どもの状況に応じて見直して、次の指導計画に反映させています。指導計画の改訂にあたっては、日頃、口頭や連絡帳などで伝えられた保護者の意向も参考にしています。
- ・ 特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れるようにしていて、保育目標にもいろいろな子どもとふれあい理解することが掲げられています。子どもたちは誰とも自然に接しています。

- ・ 苦情解決については第三者委員に直接苦情を申し立てることができることを保護者に知らせ、玄関前の掲示板でも連絡先も含めて掲示しています。また、神奈川県保育会にも苦情解決窓口があることを知らせています。日常保護者に対しては、意見箱・懇談会等で要望や苦情を聞いていて、小さな不満やクレームに早めに丁寧に対処するようにしています。
- ・ 保護者からの相談があったときは、園長、主任が対応しています。相談は、人に聞かれず落ち着いて話ができるよう配慮しています。しかし、相談の記録は曖昧な部分もみられます。今年度、新たにした様式を活用し、保護者の継続的なフォローにつなげ、情報を共有していくことに期待します。
- ・ 各種マニュアルは整備され、それに基づき実施していますが、さらに実施の記録を共有することが望まれます。

4、地域との交流・連携

- ・ 地域に向けての支援として、園庭開放や園で主催する「あそぼう会」のほか、公園に保育士が出向いて地域の子どもに遊びを提供する「おひさまサロン」、地域の子育て支援機関と連携し実施する「子育てサロン」や「育児講座アイアイ」などがあります。毎月行う「あそぼう会」では、地域の親子20組、多いときには30組の親子が参加し、一緒に遊んだり育児の相談を受けたりしています。また、地域の子どもに向けて、園長が勧める絵本の貸出を随時行なっています。
- ・ 園は、自治会に加入しています。七夕まつりやひなまつりなどに地域の老人会を招待し、年長児が鍵盤ハーモニカを演奏しています。また、七夕まつりで使う笹は、近隣の住民から提供されました。
- ・ 園独自のホームページはありませんが、市の広報や「子育てガイド」「やまと子育て情報」などに園情報を提供しています。園だよりは、市役所、子育て支援センター、学習センター、自治会などに配付しています。また、散歩のときに会う地域の人に、子育て支援のチラシを配っています。園の周囲には、「あそぼう会」や絵本の貸出について掲示しています。
- ・ ボランティアの受け入れは、主に主任が担当しています。受け入れにあたり、守秘義務や子どもの接し方などマニュアルに基づいてオリエンテーションを行ない、終了後には、感想を聞いています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・ 職員が不正・不適切な行為を行わないように、園規則や職員心得に明記され、職員に周知されています。
- ・ 法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書は、事務所に備えられ、保護者から請求があれば閲覧できるようになっていますが、積極的に公開されてはいません。
- ・ 園が民営化するときは、アンケートを取り意見を聞いています。以来、園の行事等重要なことは、職員及び保護者に目的、変更理由、経過等をよく説明して意見を聞いています。
- ・ 法人の園長・主任の合同会議を行い意見交換や人事交流を行う仕組みを作っています。主任研修も行っていますが、主任クラスを計画的に育成することは今後の課題としています。
- ・ 法人の理事会や園長会で中長期的な方向性について検討し、計画を作成していて、次代の組織運営に備え、今後の課題を理解し、それを遂行する新たな仕組みを検討しています。

6、職員の資質向上の促進

- ・ 新年度の目標設定等を基に職員の研修ニーズにも配慮して、主任が研修計画を作成していて、実際の勤務の調整もしています。研修の成果は、会議で報告するなど全職員で共有し、保育に活かしています。
- ・ 内部研修は、3月に常勤・非常勤の全職員で総括的な研修をするほか、必要に応じて職員会議や臨時の職員研修会（例えば心肺蘇生法及びAEDの使用法研修）を開き全職員が受講しています。
- ・ 人材育成計画に保育園職員に求められる職務遂行能力が、職種別に明記されています。保育士については、園長、主任、経験0～3年・4～5年・5年以上に分けて記載されています。
- ・ 人材の補充については園長が園運営に十分な人材構成であるかチェックしていて、必要な人材の補充は、行われています。園の理念や目標を理解して、子どもに誠実に関わることができる人を採用するように心がけ、入職後も定めてある「職員に求められる職務遂行能力」を達成できるよう人材育成計画が策定されています。
- ・ 実習生は、受け入れていませんが、小中学校の職員が行なう社会体験研修や中学生の職場体験は、毎年受け入れていています。今後実習生を受け入れる予定です。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。



「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p>  <p>(1)保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したのになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2)保育課程は、保育の基本方針に基づき、保護者の実状などを考慮して作成されているか。</p> <p>(3)日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の理念は、 <ul style="list-style-type: none"> ・夢や遊び心をもったのびのび生活するように ・いろいろな仲間とくらす中で、仲間を理解し自分も理解するように ・小さいクラスから大きいクラスまで一緒にくらす中で、小さい子は大きい子を見て育ち、大きい子は小さい子をかかわる関係を大切に ・子どもをまん中にして、保護者も保育者も保育園の生活をともに楽しんでいるように ・地域の子もお年寄りなど、いろいろな人が気軽に集まれる保育園に ・子どもの笑顔が素敵な保育園に ・となっていて、理念に基づき保育目標は、 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者と保育園がともに子どもを見守り育てる 2. たくさんの体験をとおして豊かな心を育てる 3. いろいろな子ども、異年齢の子どもとの関わりの中で他者を思いやる心を育てる 4. 外遊びを中心にして、たくましい身体を育てる <p>の4項目を掲げ、利用者本人を尊重したのになっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育理念に基づく保育目標は、全職員に配付され、玄関正面の掲示板、事務所、保育室などにも掲げられ意識の浸透を図っています。 ・保育課程は家庭の状況を汲み取り保育時間を考慮したり、豊かな自然環境や近隣との関係を大切にしたりして作成されています。 ・保育課程に基づきクラス担任が中心になり、子どもの実態に合わせて、指導計画を作成しています。子どもの主体性を尊重し、幼児はやりたいことを聞いて取り入れたり、乳児は子どもの表情から気持ちを汲み取ったりして、興味を助長・発展するような保育をしています。

- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- (1)入園前に子どもの発達状況や課題を把握しているか。
- (2)新入園児受け入れ時の配慮を十分しているか。
- (3)子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。

- ・入園前に園長・主任、必要に応じて栄養士や担任も保護者と個別に面接をしています。保護者に説明をしているとき、子どもを遊ばせながら様子をよく観察しています。さらに、観察したことを、後の保育に活かすために記録を取っておくことが望めます。
- ・入園前に成育歴や家庭の状況を記入した児童票を提出してもらい、職員が共有しています。
- ・短縮保育（ならし保育）は保護者とよく話し合って進めています。
- ・0、1歳の新入園児に対し個別に主担当者を決めていませんが、午睡のときなど、子どもから求めて担当が決まってくることがあり、そのときは子どもの気持ちを尊重しています。
- ・子どもが投げどころとする枕、ぬいぐるみ、おしゃぶりなどの持ち込みができます。
- ・年間指導計画・月間指導計画・週案を作成し、子どもの状況に応じて見直して、次の指導計画に反映させています。指導計画の改訂にあたっては、日頃、口頭や連絡帳などで伝えられた保護者の意向も参考にしています。

- 3 快適な施設環境の確保



- (1)子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。
- (2)沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3)子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- ・園は全体に明るく広々としています。
- ・掃除は職員が当番制で実施していて、園舎は清潔に保たれています。各保育室にエアコンを設置し、天井に扇風機をつけ温度や通風の調節をしています。窓の開口部も広く陽光は十分入り、日差しの強いときはカーテンを閉めたり中庭に日よけを取り付けたりしています。
- ・厚木基地が近く飛行機が飛ぶので、園舎は防音構造になっています。飛行機が飛ぶときは、大声で話したりせず、間を取って話すなど、騒音にならないように留意しています。午睡前にCDをかけるときも、静かで眠りを誘うような音楽を選んでいきます。
- ・沐浴設備は0歳、1歳、幼児の保育室と3か所にあります。温水シャワーの設備もあり、いつでも、体を清潔にできるようになっています。
- ・保育室に、ダンボール、パーテーション、敷物などを利用してコーナーを作って、1人または少人数で過ごせるようにしています。保育室はスペースに余裕があるので、食事の場と午睡の場を分けることができ、ゆっくり食べる子がいてもその場所を確保できます。
- ・異年齢児の交流は日常自然にできています。朝夕の合同保育、全クラス参加の朝の会、行事、散歩等その機会は多いです。朝の会が終わると幼児が乳児を部屋まで送ります。乳児の午睡のとき、5歳児が背中をトントンする「チビッコ当番」などは、する子もされる子も楽しみにしています。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- (1)子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しているか。

- ・0、1歳児については、家庭と連絡を取り合いその子どもに合った生活リズムを把握して、個別指導計画を作成しています。配慮を要する子どもは、幼児であっても個別指導計画を作成しています。
- ・個別指導計画は月ごとに見直し、子どもの発達に沿うように柔軟に変更していますが、その際、保護者の同意を得ています。
- ・入園後の子どもの成長発達記録として、児童票や健康調査票があり、毎年記録をファイリングしています。個人情報に留意し、鍵のかかる事務所のロッカーに保管し、職員は共有しています。重要な記録は年

<p>(2)子ども一人ひとりの発達の段階に応じた対応をし、その記録があるか。</p>	<p>度が変わるとき、申し送りをしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所児童保育要録は、5歳児の担任が記録して、小学校に送付しています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p>  <p>(1)特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。</p> <p>(2)障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。</p> <p>(3)アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。</p> <p>(4)外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れるようにして、保育目標にもいろいろな子どもとふれあい理解することが掲げられています。子どもたちは誰とも自然に接しています。 ・個別のケースについて、ブロック会議、職員会議等で話し合い、その記録は事務所で保管され職員は共有しています。 ・研修や新聞・書籍等で得た新しい情報や、年2回大和市から訪問する臨床心理士からのアドバイスを職員会議等で学習して、日常の保育に活かしています。 ・園舎は平屋建てで、車椅子利用の子どもも対応できるなどバリアフリーになっています。 ・障がいの特性を考慮した個別指導計画を作成して、見直しもしています。 ・虐待の定義は職員に周知されていて、日頃から衣服の着脱時の観察、子どもの表情、摂食状況等に心を配っています。家庭支援の必要な保護者には、声かけなど保護者に寄り添うようにして、信頼関係を築くようにしています。 ・虐待が明白になった場合は、大和市保育家庭課家庭児童相談室に迅速に通告・相談する体制ができていて、関係機関とケース会議を開くこともあります。 ・アレルギー疾患のある子どもに対しては、入園時と年度初めにかかりつけ医の診断書・指示書の提出を受け、それに基づき適切に対応しています。 ・食物アレルギーについては、保護者とよく連絡を取り合い、除去食や代替食を提供しています。その際、専用のトレイに名札をつけ、見た目が変わらないように調理の配色等にも工夫しています。 ・文化の異なる子どもを積極的に受け入れ、子どもがいろいろな子どもの中で育ち合うことを大切にしています。 ・文化や生活習慣の違いについては、子どもたちが理解できるように話したり、絵本を見せて理解を促したりするなど工夫しています。現在は日本語を理解できない保護者・園児はいませんが、過去のケースでは、ふりがな、ローマ字、通訳の本を使う、非言語コミュニケーションを大切にするなど工夫し、必要があれば通訳をしてもらったこともあります。
<p>- 6 苦情解決体制</p>  <p>(1)保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。</p> <p>(2)要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情解決については第三者委員に直接苦情を申し立てることができることを保護者に知らせ、玄関前の掲示板でも連絡先とともに知らせています。神奈川県保育会、大和市保育家庭課にも苦情解決窓口があることを知らせていますが、日常保護者に対して意見箱・懇談会等で要望や苦情を聞いていて、小さな不満やクレームに早めに丁寧に対処しています。 ・自分で意見を表明するのが困難な保護者や園児に対しては、さりげなく声かけをしたり、話せそうな場所や人を用意したりしています。

- ・要望や苦情を受け付け対応するための仕組みは文書化されています。要望や苦情に対しては、朝のミーティングや緊急職員会議等で知らせ、保護者の気持ちと園の対応について話し合い、速やかに具体的な方針を出すようにしています。園で解決困難な場合は、大和市保育家庭課と連携して、過去に連携の結果解決したケースもあります。
- ・過去の継続的な苦情やトラブルの記録はファイリングされ職員が共有していますが、解決済みのもので、軽微な訴えは記録されていないものもあるので、今後の保育に活かすために、記録を蓄積することが望まれます。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p>  <p>(1)子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。</p> <p>(2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。</p> <p>(3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。</p> <p>(4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。</p> <p>(5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。</p> <p>(6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中できているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室の押し入れの扉を外すことで、下のスペースを子どものイメージで遊べるよう工夫しています。保育室のおもちゃは、押し入れの下半分に入れてあり、子どもが自由に取り出して遊べるようになっています。 ・朝夕の時間等を利用して、外遊びを多く取り入れています。子どもたちは、園庭の砂場で山や道を作り、保育士が水を流すなど子どもが興味を持って遊び込める工夫をしています。保育士が水を流し始めると子どもたちから歓声が上がり、側にいた乳児も興味深そうに覗いています。 ・一日の活動は、子どもにその日のやりたいことを聞いてから決めることがあります。たとえば、散歩に行った時に見たとんぼを図鑑で調べる、読んだ絵本と同じように引っ掻き絵（塗りつぶした紙に引っ掻いて絵を描く）を描くなど子どもの興味を引き出し、集団活動に取り入れています。 ・オタマジャクシや金魚、メダカなどを飼育しています。おたまじゃくしの成長を観察し、川に返す時間を設けました。 ・毎朝行なう「朝の会」は全員が参加しています。司会は、当番の保育士が行ない、全員で歌を歌い、乳児の紹介や手遊びをしています。「朝の会」の終わりには、また歌を歌ったり、「レッゴー、しぶやっこ」に合わせ、子どもたちは身体を使って自由に表現しています。 ・園の行事である「ぎょうざパーティー」は、2、3、4、5歳児が3グループに分かれ、餃子を作っています。餃子作りに参加できない乳児は、小麦粉粘土で餃子を作ります。 ・異年齢で活動することが多いため、担任以外の保育士が関わりを持つ機会が多くみられます。 ・天気の良い日は、必ず戸外で遊んでいます。冬には、マラソン大会を行なっています。走る距離は、年齢に合わせて変えていて、子どもが達成感を感じられるようにしています。 ・中庭のプールに蓋をしたことで、少しの時間でも中庭で遊ぶことができます。また、乳児も安全に遊ぶことができます。

- 1 保育内容[生活]



- (7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

- ・ 食事は、外部の業者を利用せず園で調理することにこだわり、無農薬の米を取り寄せ、産地や農法に配慮した野菜を購入するなど配慮しています。
- ・ バイキング形式で行なう「から弁当」や流しそうめん、「ぎょうざパーティー」など子どもが食事に興味を持てる食育の行事を取り入れています。
- ・ 「さんまパーティー」や流しそうめんなど行事食のときは、中庭にテーブルを出して全員で食事をしています。園では、食事が楽しいと感じるためには、「たくさん身体を動かし、おなかを空かせて、みんなで食べる」ことが基本であると考えています。
- ・ 食器は、有害物質の出ない物を使用し、乳児の食器は、陶器を使用するなど年齢に合わせて使いやすい食器を使用しています。
- ・ 栄養士は、乳児クラスも含めた各クラスを回り、喫食状況や食事の様子を見ています。各クラスを回っている時に、子どもたちからのリクエストを聞き、献立に取り入れています。子どもの好きな献立を把握し、人気のある献立のときは、量を増やしています。
- ・ 乳児が食事をしているその場で、栄養士と担任が連携し、食材の切り方や調理方法の変更を伝えあっています。園では、保育と調理が連携することが大切と考えています。
- ・ 献立表は、幼児用と乳児用を作成し、事前に保護者に配付しています。献立表には、季節ごとの調理に関するポイントや行事食についてのコメントを記載しています。
- ・ 保育参加のときに、親子クッキングを行ない、子どもと保護者がハヤシライスを作り試食しています。保育参加で行なった親子クッキングの様子や全員で行なった「ぎょうざパーティー」の様子を給食日より知らせています。
- ・ アレルギーのある子どもには、除去食や代替食を提供しています。アレルギー食は、事故のないよう専用のトレイで運び、名札を付け栄養士から保育士に直接手渡しています。
- ・ 眠れない子どもには、午睡を強要せず絵本を読んで静かに過ごすよう対応しています。午睡は、0、1歳児、2、3歳児、4、5歳児が同じ部屋で休み、室温や明るさに配慮しています。時には、子守唄を歌い、BGMを流しています。
- ・ 0、1歳児の午睡は、乳幼児突然死症候群の対策として、うつぶせ寝にせず、15分おきに呼吸や顔色などチェックし、記録しています。
- ・ 5歳児は、秋頃より午睡を一斉活動とせず、眠い子は、横になり休息できるよう配慮しています。
- ・ 散歩に行く前や帰ってきたとき、食事の前など活動の変わる時に、排泄の声掛けをしています。子どもの排泄リズムに合わせ、保育士同士で伝達し合い、個別に声を掛けるときもあます。
- ・ トイレトレーニングは、子どもの発達に合わせ、保護者と相談しながら進めています。必要に応じて、衣類を多めに用意してもらっています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [健康管理]



- (1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。
- (2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。
- (3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

- ・健康管理に関するマニュアルに、身体測定、健康診断についてのほかに、毎日の健康状態の観察方法、保育中の観察チェックの方法、乳幼児突然死症候群の予防、発熱、発疹、嘔吐についての対応など、表にして分かりやすく記載しています。
- ・健康カードに、既往歴、予防接種の接種状況、緊急連絡先などを記録し、職員間で共有しています。
- ・全員に連絡帳がありますが、保護者から子どもの様子を口頭で聞き、降園のときに、その日の様子を伝えています。体調の悪い子は、翌日も経過を聞くようにしています。
- ・食後の歯磨きは、3歳後半から始めています。また、外部の講師を招き、職員に向けて歯みがき指導の研修を行ないました。
- ・健康診断と歯科健診は、年2回ずつ行なわれ、健康診断票、歯科健診票に記録しています。健診の結果は、その日のうちに保護者に伝え、医師からの特記事項があるときは、口頭で伝えています。特に、専門用語については、保護者が不安にならないよう医師から説明を受けたうえで伝えています。
- ・感染症マニュアルに、感染症の基礎知識、感染予防、感染症チェックリストなどについて記載しています。
- ・感染症が発生したときは、玄関の掲示板に掲示しています。また、近隣で発生した感染症についても掲示し、保護者に知らせています。季節によって流行する感染症の注意点や対処方法を前もって保護者に情報提供しています。
- ・感染症の症状、感染経路、期間、注意点など、職員が理解しやすいよう一覧にしています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [衛生管理]



- (4)衛生管理が適切に行われているか。

- ・衛生管理のマニュアルは、園長と主任が見直しをしています。
- ・見直しは、新しい情報が入ったときなど、年1回を目安に行なっています。例えば、子どもがケガをしたときの処置の方法として、消毒薬を使用せず水で汚れを洗い流すなどの情報をもとに行なっています。
- ・清掃については、下痢や汚物の処理の際、使い捨てのマスクや手袋、エプロンを使用し、消毒を行っています。また、必要なときにすぐに対処できるよう専用のバケツに準備しています。
- ・日常の清掃については、保育士が当番制で行なっています。職員用トイレには、清掃の記録がありますが、子どものトイレや保育室などの清掃の記録がされていないため、適切な清掃が行われているか確認するためにも記録していくことが期待されます。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- (5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
- (6)事故や怪我の発生時および事後の対応体制が確立しているか。
- (7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・ 保育室の家具は、備え付けの物が多く、加湿器や消火器などの備品は、紐を使用して転倒防止をしています。また、各クラスに、安全管理マニュアルを配付しています。
- ・ 地震や災害時の緊急連絡について、園のしおりに記載し、各保育室にも掲示しています。また、保護者にも説明しています。
- ・ 避難訓練は、毎月行なっています。月ごとに、火災、地震、不審者侵入を想定して実施しています。避難場所については、園に留まる方が安全と考えていますが、園の前を流れる川の水位の上昇や地震などにより建物が崩壊したときなど、危険と判断したときには、市のバスで川上に避難することとしています。
- ・ A E Dを設置していて、年1回、消防士によるA E D、心肺蘇生法など救命訓練の研修を行なっています。
- ・ 事務所や保育室の電話の側に、救急の連絡先を掲示しています。
- ・ 子どものケガについては、園長、主任に報告し、保護者に状況とケガの状態、その後の処置について知らせています。また、通院が必要な場合は、電話で保護者に確認を取っています。
- ・ 発生した事故について、早急に話し合う体制が整っています。しかし、ヒヤリハットの報告事例が少ないので、蓄積して活用することが期待されます。
- ・ 日中の玄関の施錠は、上下2か所にしてあります。また、園の玄関など防犯カメラを4台設置し、記録されています。
- ・ 不審者侵入対策として、毎年研修を行なっています。研修は、不審者に対する対応方法や午睡中に起きたときの対応方法として、不審者を刺激しないなど職員に周知されています。
- ・ 各クラスに、非常用ボタンが設置されていて、セキュリティ会社を通じて警察が来る体制が整っています。
- ・ 不審者情報が入ったときは、保護者が不安にならないよう配慮しています。しかし、保護者アンケートには、不審者侵入に対する不安な声があがっているため、保護者の不安を軽減するために、対策や体制について、更に説明することに期待します。

- 3 人権の尊重



- (1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4)虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (5)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- ・ 子どもに対しての言葉遣いや人権について、「職員心得」の読み合わせを行ないました。
- ・ 園の生活や遊びの中で、強制したりせかしたりすることなく、子どもの個々のペースに合わせ、分かりやすい言葉で話しています。
- ・ 子ども同士のケンカやトラブルなどについては、子ども同士で解決できるよう基本的に見守っています。ヒートアップしてしまう子どもがいたときは、場所を変えクールダウンするよう配慮し、子どもの気持ちや発言を受け止め、落ち着いた頃に言葉で伝えるように話しています。
- ・ 子どもと一緒に、扉付きのパーテーションを段ボールで作り、活用しています。押し入れの扉を外し、下半分を利用して、子どもが落ち着いて過ごせる場所を確保しています。
- ・ 子どもが落ち着かないときは、事務所に行く、空いている部屋を利用するなどプライバシーを守れる場所を提供しています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 守秘義務については、入職時に研修を行ない、誓約書を提出しています。また、ボランティアや実習生には、オリエンテーションのときに、個人情報について説明しています。 ・ 個人情報の取り扱いについてのガイドラインは、「職員心得」に明記しています。 ・ 園の生活や行事の時の写真など、DVDにして保護者に販売しているため、個人情報の取り扱いについて同意を得ています。 ・ 個人情報の記載されている書類などに関しては、事務所で施錠管理しています。パソコンやUSBメモリについては、持ち出し禁止とし、同様に施錠管理しています。 ・ 行事や持ち物、服装などで性差による区別はせず、出席簿も性別で分けていません。また、グループ分けは、子どもの主体性や個性を尊重していて、性差による区別は行なっていません。 ・ 子どもを無意識による性差の固定観念で保育しないよう職員会議で話し合っています。
<p>- 4 保護者との交流・連携</p>  <p>(1)保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。</p> <p>(2)個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。</p> <p>(3)保護者の相談に応じているか。</p> <p>(4)保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。</p> <p>(5)保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。</p> <p>(6)保護者の自主的な活動の援助や意見交換を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育理念や保育目標は、園のしおりにかみくだいて載せています。また、玄関や保育室の前など、保護者が見やすい場所に保育目標を掲示しています。 ・ 年2回行なう懇談会で、保育理念や保育目標について、園長が説明しています。保護者アンケートからも保育目標や保育方針について「理解している」との回答が多くありました。 ・ 子どもの様子は、連絡帳を使用して伝えています。乳児だけではなく、幼児にも連絡帳を使用し、子どもの体調によっては口頭でも伝えています。 ・ 懇談会は、年2回行なっています。個人面談は、保護者から要望があったときに、随時行っています。また、小学校入学に向けての保護者個人面談を行なっています。 ・ 園では、子どもや保護者の様子を常に気に掛けるようにしていて、気になることがあったときには、園長、主任が声を掛け、個別に面談を行うこともあります。 ・ 保護者からの相談があったときは、園長、主任が対応しています。相談は、人に聞かれず落ち着いて話ができるよう部屋を別にし、面談が終わるまで電話の取り次ぎをしない、他者が入らないようにするなど配慮しています。 ・ 相談を受けた保育士への助言は、園長、主任が行ない、連絡帳で相談を受けた場合は、連絡帳で返答するのではなく、口頭ですなどできるだけ正しいニュアンスで伝えています。 ・ 相談の記録は、主任が行なっていますが、相談の記録として曖昧な部分もみられます。今年度、新たにした様式を活用し、保護者の継続的なフォローにつなげ、情報を共有していくことに期待します。 ・ 毎月、園だよりを発行しています。園だよりは、保育室に掲示し、保護者にも配付しています。また、玄関の掲示版に、行事や散歩の様子を写真入りで掲示し、日常の園での様子は、連絡帳で個別に知らせています。

- ・年2回行なう懇談会で、マラソン大会のビデオ上映を行ないました。クラスだよりに、子どもが野菜の収穫をしたときやアサガオの栽培の様子を写真で紹介し、保育室にも掲示しています。
- ・希望する保護者には、子どもの日常の様子や散歩に行ったときの写真をDVDにして、個人情報の取り扱いに関して同意を得たうえで、年度末に販売しています。また、卒園児には、子どもの様子を載せたアルバムを卒園のお祝いとして卒園生全員に渡しています。
- ・年度始めに、年間の行事予定表を渡しています。保育参加の日は、印を付けるなど分かりやすくしています。
- ・保育参加の日程は、基本的に3日間としていますが、参加できない保護者もいるため、保護者の要望に合わせて随時参加してもらっています。
- ・保護者が懇談会に参加しやすいよう、保護者の要望を聞き、開始時間を1時間遅くしました。
- ・父母会の集まりには、園の保育室を提供しています。父母会の引き継ぎ会や行事のときのプレゼントの打ち合わせなどに、園の職員が参加しています。
- ・民営化のときに、大和市と保護者、園が参加する三者協議会を2年間行なっています。保護者からの提案により、保護者と園の二者協議会としていますが、必要なときには、市も参加する体制が整っています。
- ・親子祭りや運動会のときに、父母会へ協力をお願いしています。保護者と職員が一体となって子どもたちの成長を見守るよう、常にコミュニケーションをとることを心掛けています。

評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <p>(1)地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2)地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に向けての支援として、園庭開放や園で主催する「あそぼう会」「おひさまサロン」を行なっています。 ・民生委員児童委員が行っている「子育てサロン」に協力しています。また、「育児講座アイアイ」を民生委員児童委員と連携して開催しています。 ・毎月行なう「あそぼう会」では、地域の親子20組、多い時には30組の親子が参加し、一緒に遊んだり育児の相談を受けたりしています。 ・「子育てサロン」や「おひさまサロン」のときに、近隣の子どもの様子や最近の子育て世帯についての情報交換を行なっています。 ・年2回行なわれる「地域子育て連絡協議会」に園長が参加しています。連絡協議会には、大和市の保育家庭課や児童相談室、保健師、栄養士、民生委員児童委員、子育て支援センター、学習センターなどが参加していて、地域の情報交換を行なっています。 ・毎日、園庭を開放しています。月1回の「あそぼう会」では、参加する子どもたちに合った体操や保育園ならではのダイナミックな体

	<p>験として泥んこ遊びやプール遊びを提供しています。また、参加カードを作り、参加した親子が継続して参加しやすい工夫をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回行う「育児講座アイアイ」では、家庭にあるもので簡単に製作できる「おうち遊び」を提供しています。 ・育児講座は、「あそぼう会」に参加する親子や散歩の途中で会う親子などにチラシやポスターを配り、気軽に参加できるよう呼びかけています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p>  <p>(1)地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。 (2)相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「育児講座アイアイ」では、体操やミュージカルなどとともに育児相談も行なっています。また、参加した保護者からアンケートをとり、子育てに関する不安や要望、育児講座の感想を聞いています。 ・育児相談は毎日受け付けていますが、園が主催して行う「あそぼう会」の参加者が増えていて、気軽に育児相談ができる雰囲気を作るよう配慮しています。 ・「あそぼう会」や「子育てサロン」、「おひさまサロン」、「育児講座アイアイ」の日程や情報は、自治会にポスターを配布しています。 ・必要な関係機関や連携している機関については、リストを作成し、事務所で保管しています。関係機関との連携は、主に園長が行なっています。 ・大和市の児童相談室や保育家庭課、地域子育て支援センター、学習センターなどと連携しています。また、市の臨床心理士が年2回訪問していて、専門的なアドバイスをもらい、保育に活かしています。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>  <p>(1)保育園に対する理解促進のための取り組みを行っているか。 (2)子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園では、自治会に加入しています。七夕まつりやひなまつりなどに地域の老人会を招待し、5歳児が鍵盤ハーモニカを演奏しています。また、七夕まつりで使う笹は、近隣の住民からいただきました。 ・地域の子どもに向けて、園長がお勧めする絵本の貸出を随時行なっています。 ・散歩に行くことが多く、日常的に地域の人と挨拶を交わしています。時には、地域の人とハイタッチをして交流を図ることもあります。 ・自治会で行なうお祭りは、自主参加としていますが、4、5歳児が踊りを披露しています。また、保育士がマジックショーの協力をしました。

<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p>  <p>(1)将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。 (2)利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園独自のホームページはありませんが、市の広報誌や「子育てガイド」「やまと子育て情報」などに園の情報を提供しています。 ・保育園のパンフレットには、「子育てサロン」や一時保育、育児相談、育児講座について記載しています。地域に向けた情報誌「かろがも通信」は、大和市役所、子育て支援センター、学習センター自治会などに配付しています。また、散歩の時に会う地域の人に、子育て支援のチラシを配っています。園の周囲には、「あそぼう会」や絵本の貸出について掲示しています。 ・利用希望者の問い合わせや見学の対応は、園長と主任が行なっています。電話での問い合わせは、顔が見えない分丁寧に対応することを心掛けています。 ・見学の日時は、見学希望者と相談して決めています。また、できるだけ希望に沿うようにしています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p>  <p>(1)ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。 (2)実習生の受け入れを適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの受け入れは、主に主任が担当しています。受け入れにあたり、守秘義務や子どもの接し方などマニュアルに基づいてオリエンテーションを行ない、終了後には、感想を聞いています。 ・実習生は、受け入れていません。 ・小中学校の職員が行なう社会体験研修や中学生の職場体験は、毎年受け入れています。 ・社会体験研修や職場体験の終了者からの意見を聞き、職員で話し合う場を設け、保育の振り返りを行なうこともあります。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p>  <p>(1)保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。 (2)職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。 (3)非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の補充については園長が園運営に十分な人材構成であるかチェックしていて、必要な人材の補充は、行われています。園の理念や目標を理解して、子どもに誠実に関わることができる人を採用するように心がけ、入職後も定めてある「職員に求められる職務遂行能力」を達成できるよう人材育成計画が策定されています。 ・新年度の目標設定等を基に職員の研修ニーズにも配慮して、主任が研修計画を作成していて、実際の勤務の調整もしています。研修の成果は、会議で報告するなど全職員で共有し、保育に活かしています。 ・内部研修は、3月に常勤・非常勤の全職員で総括的な研修をするほか、必要に応じて職員会議や臨時の職員研修会（例えば心肺蘇生法及びAEDの使用法研修）を開き全職員が受講しています。 ・非常勤職員の配置や指導の担当者は主任ですが、園では常勤職員と非常勤職員を差別せず、マニュアル類は同じものを配付しています。職員心得にも互いに尊重し合う関係であることが明記されています。非常勤職員も必要なポジションを受け持っていて、経験豊富であり、資質向上について常勤職員と学び合っています。

<p>- 2 職員の技術の向上</p>  <p>(1)職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。 (2)保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を振り返り、改善に努める仕組みがあるか。 (3)保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、3月の内部研修で職員個人の振り返りとともに、園としての業務内容の振り返りを行う仕組みを持っています。書式が定型化していて、振り返りを基に次年度の計画を作成するというように、一貫性を持っています。今年度より3月の内部研修で設定した個々の職員の計画を下半期の初めの10月に、園長と面談し必要に応じて修正することになっています。 ・年2回訪問する市の臨床心理士から、配慮を必要とする子どもの接し方や、最新の情報を学んだり、ボール遊びや歯みがき指導等講師を招き研修会をしたりして、保育技術の向上に努めています。 ・内部研修での話し合いの結果、保育園としての改善点を明らかにして次年度に取り組んでいます。保育園としての振り返りを自己評価として公表していて、年度初めの懇談会でも報告しています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p>  <p>(1)本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成計画に保育園職員に求められる職務遂行能力が、職種別に明記されています。保育士については、園長、主任、経験0~3年・4~5年・5年以上に分けて記載されています。 ・日々の保育については、職員にできる限り自主的な実践を任せています。クラス担当等のほかに責任を持つ役割が決まっています。 ・日頃から何でも話し合える職員集団となるように心がけていますが、3月の全職員のレポートでも提案や意見を書き込めるようになっていきます。園長はレポートを基にした面接で、職員の満足度を聞き、把握しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 経営における社会的責任</p>  <p>(1)事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。 (2)サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が不正・不適切な行為を行わないように、園規則や職員心得に明記し、職員に周知しています。 ・法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書は、事務所に備えられ、保護者から請求があれば閲覧できるようになっていますが、これまでは閲覧できることを保護者に伝えていませんでした。 ・新聞等で他施設の不正や不適切な事実が報道されたとき、朝のミーティングや職員会議の議題として取り上げ、それらの行為を行わないように話し合っています。 ・ゴミ減量化については、ゴミ箱を分けてゴミの分別を徹底して、リサイクルできるものは資源ゴミとしています。裏紙を使用したり、子どもたちの工作にもトイレットペーパーの芯や空き箱等を使ったり、ダンボール箱でパーテーションを作ったりしています。 ・省エネルギーの促進については、エアコン、電灯や家電の使用方法をマニュアルとして明記しています。電球を一部LED電球にしたり午睡を2クラス一緒にして、エアコンの使用を減らしたりするなど工夫しています。植栽に配慮し西側の窓を「緑のカーテン」にするなど緑化も推進しています。 ・保護者にも夏の節電についての取り組みを文書化して知らせていて、

	<p>サービスの質を維持して省エネに取り組むことは運営にも益するものとなっています。</p>
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>  <p>(1) 保育園の理念や基本方針等について職員に周知されているか。</p> <p>(2) 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。</p> <p>(3) 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園の理念・保育目標は保育課程に明記され職員に配布されています。保育目標は玄関前掲示板、事務所、保育室等に掲示されていて、浸透を図っています。年度初めに職員で理念・保育目標を確認し、その後保護者への懇談会等で説明しています。アンケートでも理念・目標についての保護者の満足度は高いです。 ・園が民営化するときは、アンケートを取り意見を聞いています。以来、園の行事等重要なことは、職員及び保護者に目的、変更理由、経過等をよく説明して意見を聞いています。これまでに、運動会が雨天のとき平日延期でなく同日に小学校の体育館を借りて行うことや懇談会の開始時刻を1時間遅らせるなど保護者が参加しやすいように考えてきました。 ・法人の園長・主任の合同会議を行い意見交換や人事交流を行う仕組みを作っています。主任研修も行っていますが、主任クラスを計画的に育成することはしていません。 ・主任は朝夕や給食時等適宜保育に入り、全体の様子や職員の様子を把握し、助言指導をして園長に報告しています。職員の体調や家庭の事情にも配慮し、心身の良好な状態で勤務できるように相談に応じたり配慮したりしています。職員ヒアリングでも主任は話しやすいとのことでした。
<p>- 3 効率的な運営</p>  <p>(1) 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2) 保育園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に影響がある情報については、主に法人理事長が中心となり、全国レベル、市レベルの情報収集・分析をしています。重要な情報は、園長・主任会議等で話し合い、今後の方向性や課題を設定して各保育園で話し合い、全体で共有しています。子ども園等の情報についても研修しています。 ・法人の理事会や園長会で中長期的な方向性について検討し、計画を作成していて、次代の組織運営に備え、今後の課題を理解し、それを遂行する新たな仕組みを検討しています。 ・理事会や園長会で主任や次代園長の育成について話し合い計画を立てているところです。 ・経理等の運営面では税理士事務所の意見を聞きながら、方向性を探っています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2012年7月17日～7月31日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 58.5%（82枚配付、48枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...6人、1歳児クラス...9人、2歳児クラス...7人、3歳児クラス...7人、
4歳児クラス...11人、5歳児クラス...8人

同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。
文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、
「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

まとめ

- ・保育園が掲げている保育目標や保育方針について、「知っている」「まあ知っている」の回答が89.6%と高く、「知っている」と回答した人への付問「保育目標や保育方針は賛同できますか」については、全員が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。保育目標に掲げている「外遊びを多く取り入れている」ことに満足している声が多く聞かれました。
- ・保育内容の「遊び」については、「満足」「どちらかといえば満足」の回答が多くありました。「クラスの活動や遊びについてお子さんが満足しているか」「子どもが戸外遊びを十分しているか」「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動について」「遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについて」は、全員が満足しています。また、散歩や遊びを通して交通ルールや決まりを教えていることやいろいろな体験ができることに対して満足の声がありました。
- ・「快適さや安全対策などについては、不審者侵入について不安な声があります。玄関は、2か所施錠され、防犯カメラも4台設置されていますが、“日中は、施錠しておくほうが安心である”との意見がありました。
- ・「保育園と保護者との連携・交流については、「満足」「どちらかといえば満足」の回答が90%以上であり、高い満足度です。保護者からの相談に対し、“親切・丁寧な対応により育児の悩みが緩和された”との意見もありました。しかし、懇談会や送り迎えの際の情報提供などに不満な声もあります。
- ・「職員の対応については」の満足度も高く、特に「お子さんが大切にされているか」「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」については、「満足」「どちらかといえば満足」の回答が98%です。その反面、挨拶や対応について、“職員によって差がある”“知らないお母さんには挨拶しない”との意見もあります。
- ・保育園の総合満足度は、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせると95.9%です。
外遊びや行事が多いこと、子どもが元気に楽しく過ごしていることに満足している声が多いなか、保護者に対する対応に不満や要望の声が聞かれます。また、元気に遊ぶ子どもの様子に満足している声と、遊びと生活に程よいリズムをつけることを望む声も聞かれます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

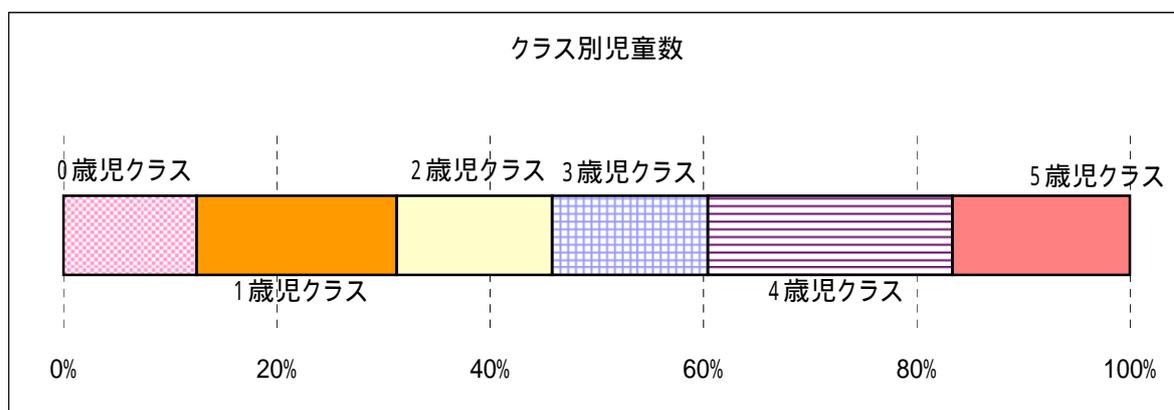
実施期間： 2012年 7月17日～7月31日

回収率： 58.5% （回収48枚 / 配布82枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
48	6	9	7	7	11	8	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



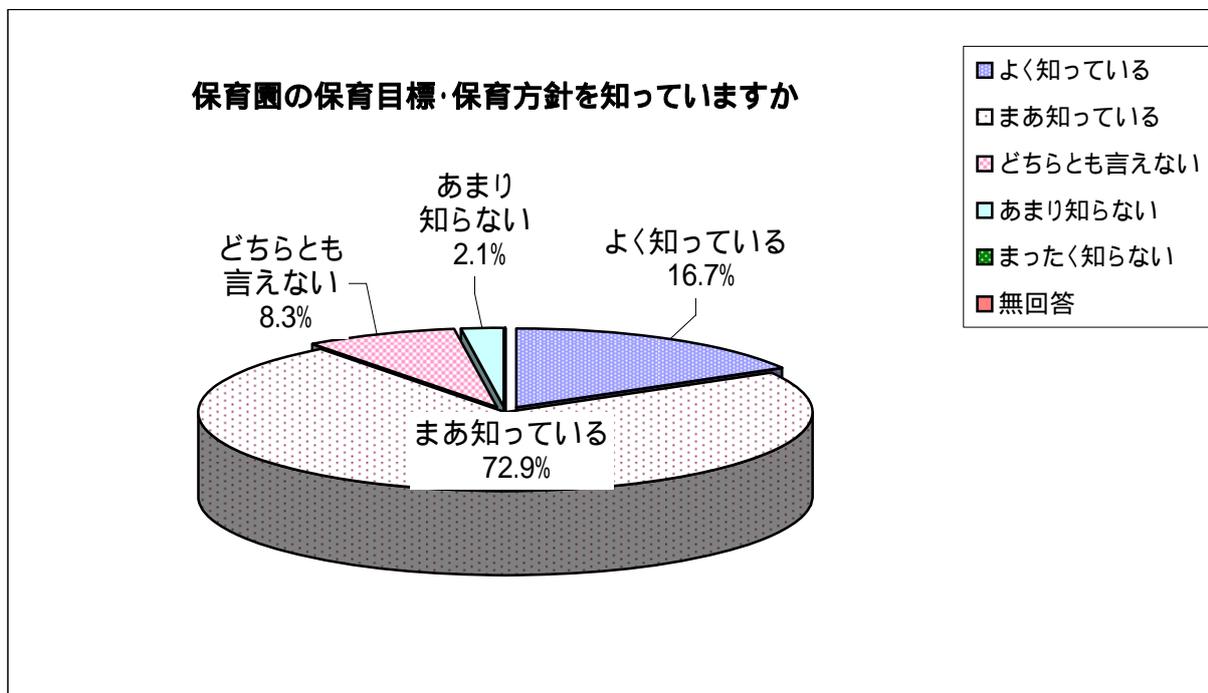
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	16.7	72.9	8.3	2.1	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

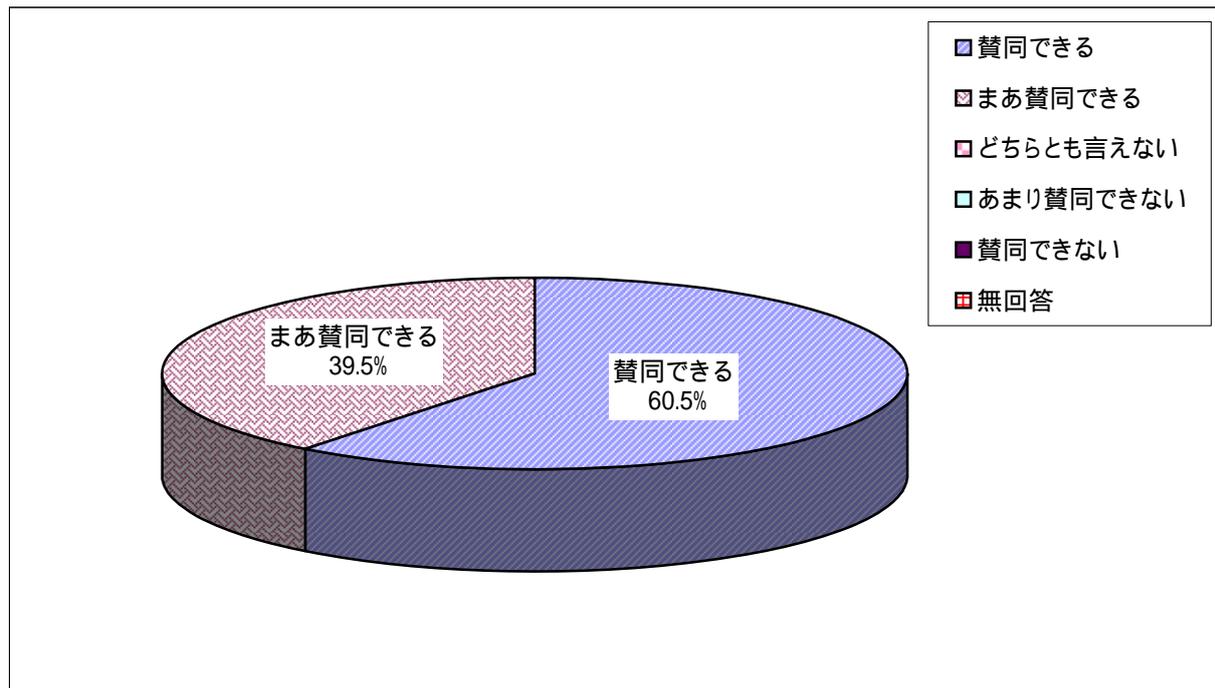


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	60.5	39.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

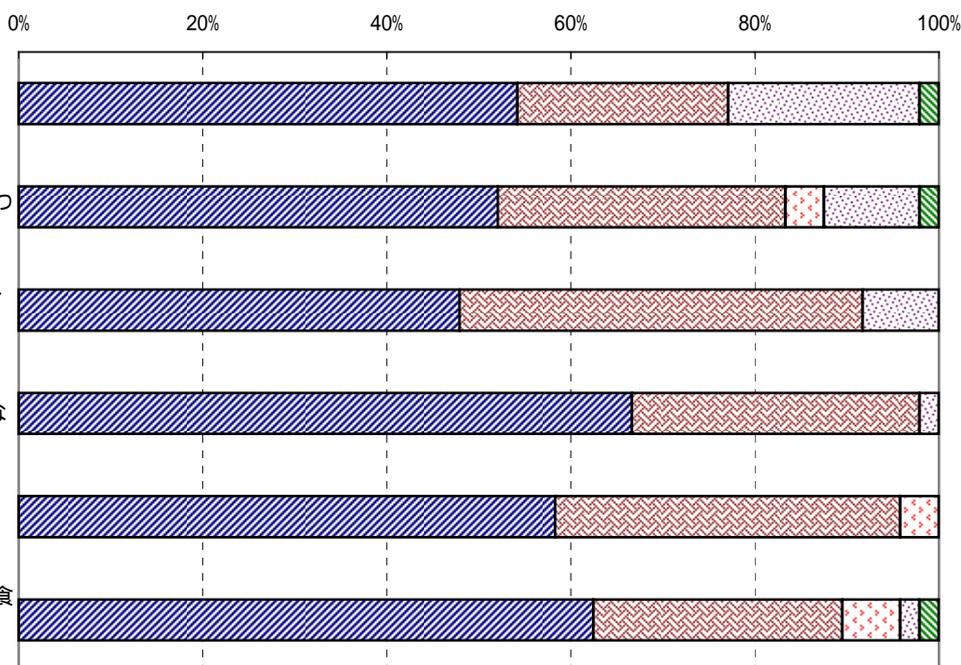
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	54.2	22.9	0.0	0.0	20.8	2.1	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	52.1	31.3	4.2	0.0	10.4	2.1	100
園の目標や方針についての説明には	47.9	43.8	0.0	0.0	8.3	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	66.7	31.3	0.0	0.0	2.1	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	58.3	37.5	4.2	0.0	0.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	62.5	27.1	6.3	0.0	2.1	2.1	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



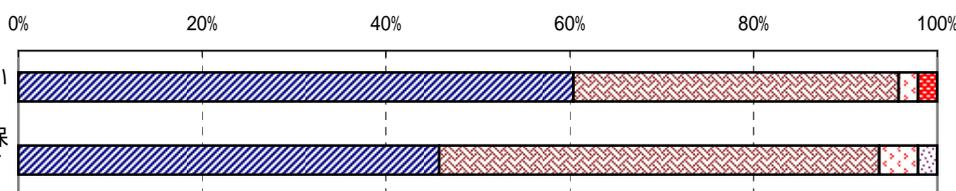
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	60.4	35.4	2.1	2.1	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	45.8	47.9	4.2	0.0	2.1	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



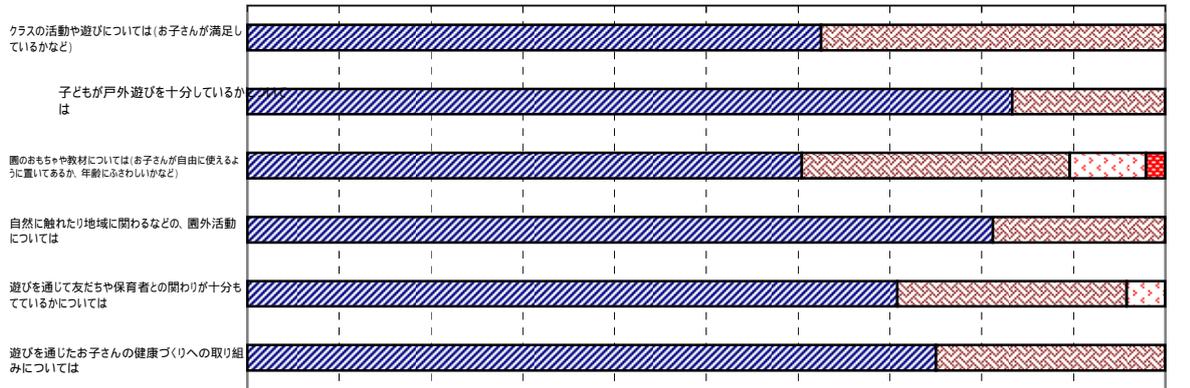
問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	60.4	29.2	8.3	2.1	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	81.3	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	70.8	25.0	4.2	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

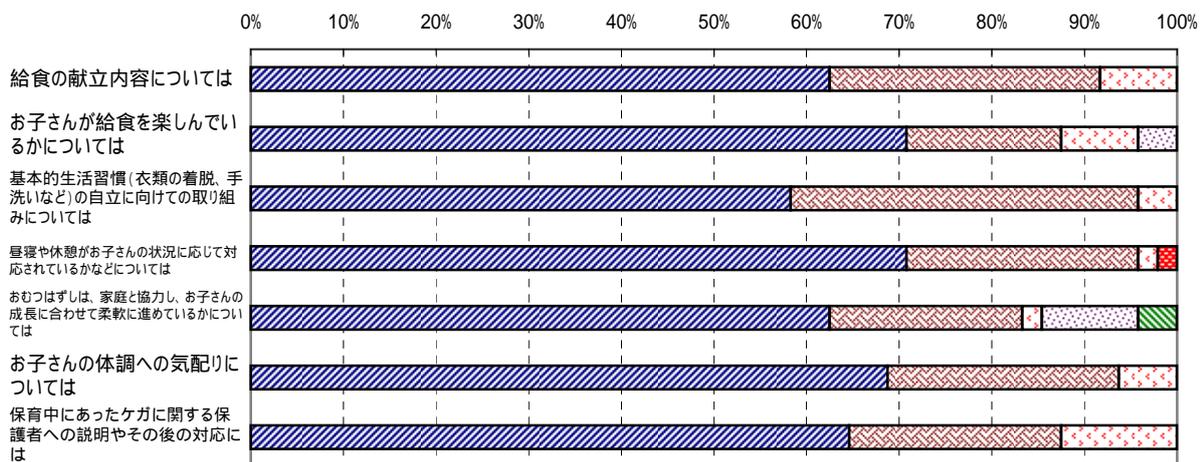


(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	62.5	29.2	8.3	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	70.8	16.7	8.3	0.0	4.2	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	58.3	37.5	4.2	0.0	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	70.8	25.0	2.1	2.1	0.0	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	62.5	20.8	2.1	0.0	10.4	4.2	100
お子さんの体調への気配りについては	68.8	25.0	6.3	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	64.6	22.9	12.5	0.0	0.0	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



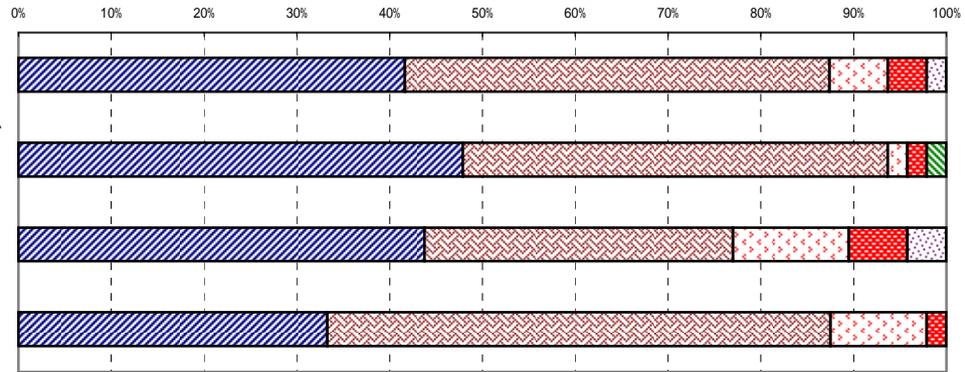
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	41.7	45.8	6.3	4.2	2.1	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	47.9	45.8	2.1	2.1	0.0	2.1	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	43.8	33.3	12.5	6.3	4.2	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	33.3	54.2	10.4	2.1	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



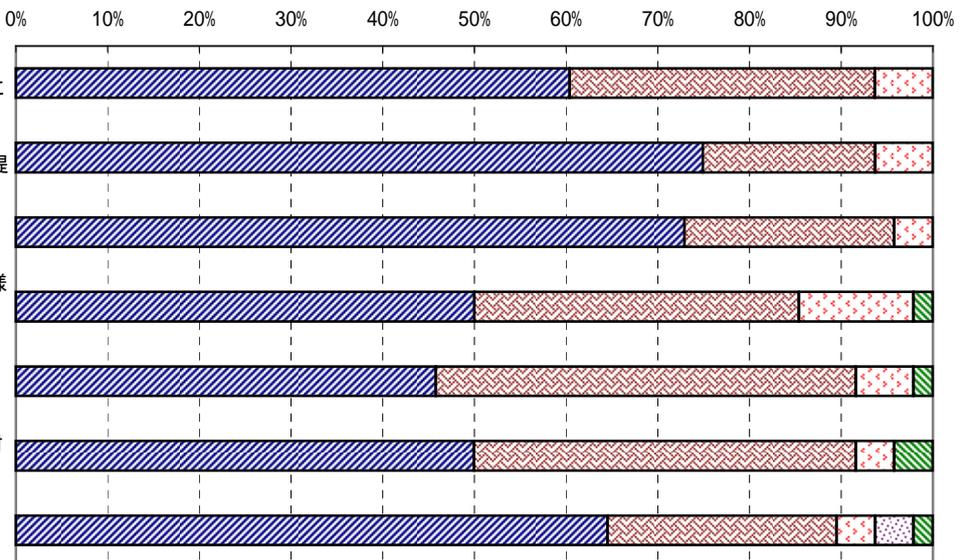
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	60.4	33.3	6.3	0.0	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	75.0	18.8	6.3	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	72.9	22.9	4.2	0.0	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	50.0	35.4	12.5	0.0	0.0	2.1	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	45.8	45.8	6.3	0.0	0.0	2.1	100
保護者からの相談事への対応には	50.0	41.7	4.2	0.0	0.0	4.2	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	64.6	25.0	4.2	0.0	4.2	2.1	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

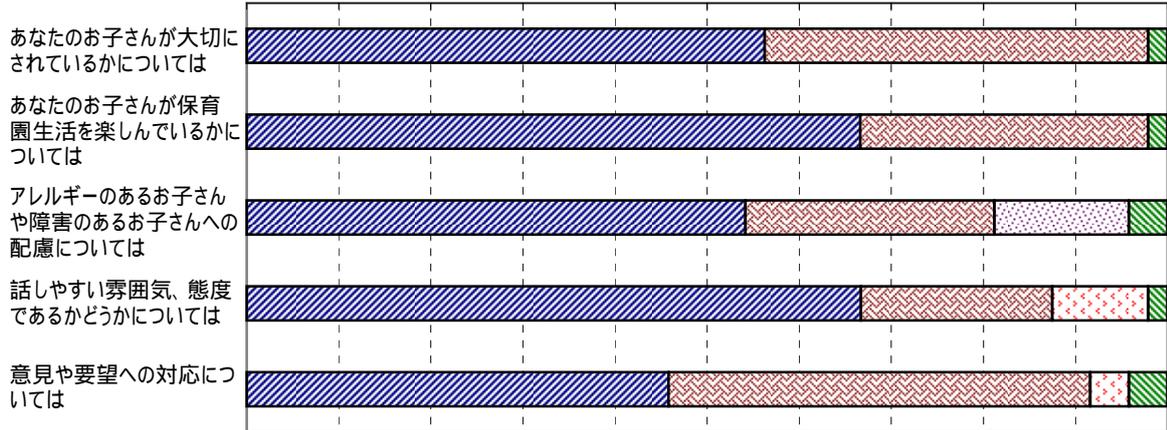
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	56.3	41.7	0.0	0.0	0.0	2.1	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	66.7	31.3	0.0	0.0	0.0	2.1	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	54.2	27.1	0.0	0.0	14.6	4.2	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	66.7	20.8	10.4	0.0	0.0	2.1	100
意見や要望への対応については	45.8	45.8	4.2	0.0	0.0	4.2	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

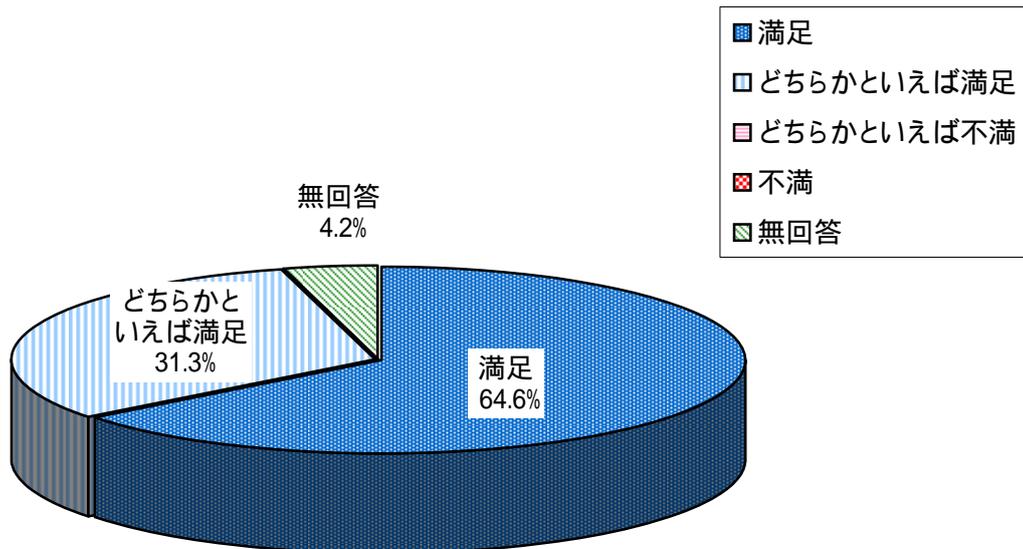
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	64.6	31.3	0.0	0.0	4.2	100



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 9月10日（月）9：00～18：00 9月14日（金）8：30～17：00

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0、1歳児クラス

毎朝、全員で行なう「朝の会」に0、1歳児も参加しています。月齢の高い子どもは、歩いてホールに行き歩けない子どもは、保育士が抱いて参加しています。園では、異年齢の交流を大切にしているため、子どもたちが元気に歌う声にも泣く子どもはいません。「朝の会」が終わると、5歳児と手をつなぎ保育室まで送ってもらいます。

保育室に戻ると、手洗いを済ませ椅子に座り、出席をとります。名前を呼ばれた子どもは、保育士と一緒に手を上げて返事をします。0歳児も名前が呼ばれると返事をする子どももいます。その後、午前のおやつの時間になりますが、子どもの体調や様子に合わせて授乳したり布団で寝ている子どももいます。

午前のおやつが終わると、トイレやおむつ替えを済ませてから中庭で遊びます。中庭は、シートで日よけをしています。首まで紫外線を保護する帽子をかぶり、保護者から要望のあるときは、日焼け止めをつけています。

中庭にプールがありますが、使用しないときは蓋をして、乳児の遊び場になります。保育士は、子どもが楽しく生活することを大切と考え、できるだけスキンシップがとれるよう心掛けています。子どもたちは、プラスチックカーやボール、ペットボトルなど好きなおもちゃで遊びます。子ども同士がおもちゃを取りあうこともなく、落ち着いて遊び込めています。

2歳児クラス

登園が終わる頃には、園庭で遊び始めます。遅れて登園してきた子どもが出遅れて泣いていると、保育士が駆け寄り、子どもと手をつなぎ、園庭に一緒に行きます。園庭に行くと、泣いていた子どもは、すぐに泣き止み元気に遊び始めています。

「朝の会」が終わると、5歳児と手をつなぎ保育室まで戻ります。

観察をした日は、4歳児と一緒に運動会のリレーの練習をしました。園庭では、4歳児がリレーのコースを走る様子を見て、手を叩いて一生懸命応援しています。保育士は、「応援上手でした」とほめています。

練習が終わると、園庭で遊びます。プラスチックのトロッコを押したり砂場で山や川を作ったり、昆虫をみつけるなど自由に遊んでいます。

中庭にあるシャワーで砂と汗を流した子どもたちは、保育士に身体を拭いてもらおうと、保育室に戻り着替えをします。着替えが上手にできない子には、保育士が手伝っています。シャワーが終わった子どもからトイレに行き、それぞれ好きな絵本を読んでいます。

3歳児クラス

「朝の会」が終わると、保育室に戻ります。園では、乳児以外にも朝のおやつを提供しているため、排泄、手洗いが済んだ子どもから好きな席に着きます。席に着くのが遅くなってしまった子どもがいましたが、保育士に促され空いた席に着き、泣くこともなく静かに座っています。おやつを食べ終わると、保育士が絵本を読み始めます。子どもたちは、保育士のほうを向き、静かに聞いています。

観察した日は、5歳児と一緒に散歩にいきました。異年齢で散歩に行く時は、異年齢同士で手をつなぎ、2列に並んで行きます。

園の前を流れている川の遊歩道に着くと、保育士の声かけで手を離し歩きはじめました。川には、カメやコイ、アメンボ、カモがいました。子どもたちは、カメやカモを見つけると柵につかまり、川のほうを覗き込みます。名前の分からない生き物がいたときは、園に帰ってから保育士と図鑑で調べています。

園に帰る途中、近所の人に会い「今日は、散歩に行ったの」と聞かれると「うん」と何人かの子どもが返事をしています。子どもたちは、近所の人とハイタッチをしてから別れました。

4 歳児クラス

天気の良いときは、外遊びを多くしています。登園すると園庭で他のクラスの子どもたちと一緒に遊びます。観察した日は、運動会の飾りの旗を作りました。三角の色画用紙に好きな絵を描いています。この色画用紙は練習用で、本番用の旗は、三角に切ってあるナイロンにペンを使って上手に描きました。

別の観察日には2歳児と一緒に運動会のリレーの練習をしました。2歳児の応援を受けながら、元気よく走ります。走るのが速い子、遅い子がいますが、他の子どもは、走っている全ての子を応援しています。

園庭で遊んだ後は、中庭に行きシャワーで砂や汗を流します。着替えが終わると、ホールで5歳児と一緒に昼食を食べます。

異年齢の交流が多い園のため、5歳児が年下の子の手伝いやお世話をする姿をみえています。自然に年下の子のお世話をし、最年長になったときには、今度は自分たちが率先して年下の子の手伝いやお世話をすることを楽しみにしています。

5 歳児クラス

毎朝、園児全員がホールに集まり行なう「朝の会」では、乳児の紹介や元気に歌を歌っています。「朝の会」が終わると子どもたちは、率先して年下の子と手をつなぎ保育室まで送っていきます。

午前のおやつが終わると、グループに分かれ園庭で遊んだり、参加した地域のお祭りの絵を描いたりして過ごします。全員が絵を描き終わると、公園に散歩に行きます。散歩は、異年齢で行くこともあります。異年齢で行く散歩は、年下の子と手をつなぎ、車が通る側と反対に年下の子が歩くようにします。靴のマジックテープが外れている子がいると直してあげるなど、自然に年下の子のお世話をしています。

5歳児が行なうチビッコ当番は、午睡の時も布団敷きの手伝いや年下の子が安心して眠れるよう「午睡のトントン」をします。食事や午睡を年齢に捉われず一緒に行なうことで、年長児の自覚を持ち、年下の子に気を配ることを自然に行なっています。

まとめ

異年齢交流を多く取り入れています。全員が参加する「朝の会」では、乳児も参加していて、年上の子どもは年下の子どものお世話を率先して行なっています。年下の子どもは、年上の子どもの姿をみて、大きくなったら自分も年下の子どものお世話をしたいと思っています。

子どもたちは、室内や屋外でも自由にのびのびと遊んでいます。また、保育士が、絵本を読み始めると保育士のほうに身体を向け、集中して聞くこともできます。園全体が元気で、子ども同士だけではなく、職員同士の関係も良好であり、連携も密に取れています。子どもの気持ちを汲み取り、子どもが楽しく生活するには、職員が楽しく過ごすことが大切であると考えています。

事業者のコメント

大和市に言われていた、「民営化後速やかに第三者評価を受審すること」という約束を果たすことができました。

第三者評価と聞くとマニュアル整備が一番に思う人が多いようでした。もちろん、マニュアルの整備の確認は多くの時間を割くことにはなりましたが、やはり日頃の保育の振り返りが一番大切であったし意義のあることでした。

私たち保育園の日常はかなり忙しく、こうした機会を与えられなければ、なかなか丁寧に保育内容の検証を行うことが出来ないのが現状です。

渋谷保育園では0・1歳児、2・3歳児、4・5歳児、調理職員のブロックに分けてコウモクごとに自己評価を行い、それを全体会議で報告しながらまとめるという方法で進めました。

担当クラスによって、立場によって、あるいは保育士の性格によってなど異なる意見がたくさん出され面白かったです。簡単にスルーしてしまったら、第三者評価をやる意味がないし、おおいに引っ掛かりながら話し合いができることこそ良かったと思っています。

当たり前に行っていた自らの活動や行為が、多くの職員の意見を聞き検討し合う事で、改善点を見出し、良い雰囲気の中で会議が進められました。

更に、保育士だけでなく調理担当職員（栄養士・調理師）と職域の違いを超えて理解しあえたことは大きな成果であったと思います。

実際に評価委員の方からいただいた評価は私たちの保育園の理念をよく理解していただき、細かな子どもの様子を見られてのありがたいもので、職員が大きな励みになりました。

また、職員からこんな良い評価をいただいて良いものだろうかという意見もあり、謙虚に評価に恥じないように保育に励まなければなりません。

保護者のアンケートは大変好意的な評価をいただき大変うれしく思っております。

これからも、保育理念である「子どもをまん中にして、保護者も保育者も保育園の生活を共に楽しんでいけるように」を実現していきたいと考えています。

また、アンケートの中に保育園に対するご意見、改善の提案などは丁寧に受け止めていきたいと考えています。

第三者評価の終わった現在、残された課題への取り組みはこれからも続いていきます。今を良しとするのではなく、謙虚に自らを振り返ること、迷った時の指針となるものは「子どもにとってより良いものはどういうことかな」と考えることが原点であろうと思っています。

（ 園長 小島喜久枝 ）

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 第2事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
